

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391600048		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ須屋		
所在地	熊本県合志市須屋2863-4		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	平成26年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方がいつもの町で心地よく生活出来る様、一人一人に応じた対応を心掛けている。また、小規模多機能や認知デイを併設しておりイベントやボランティア来訪時はこちらも、長い廊下を歩行訓練も兼ね職員や利用者も自由に行き来し、互いに交流が図られている。間もなく開所から3年が経過しようとしているが、御家族から「ここが合ってる。ここに入ってよく笑って話すようになった」と言う有り難い言葉が聞かれるようになり今後も家族との絆を大切にしながら常に探求心を持ち質の向上に努めていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温かな採光を浴びながら両ユニットがそれぞれの入居者に応じた環境整備に努めているホームは、職員の細やかな対応が更に安心感となって笑顔を引き出している。外出や継続した取り組みに対して家族の協力も大きく、居室への持ち込みの品からも思いが伝わってくる。近隣者や職員の持ち寄った季節の花や、大切に管理されている観葉植物、花鉢は毎年開花しホームを見守っており、入居者が自然に季節の歌や童謡を口ずさんでいる。管理者のリーダーシップのもと職員の優しさや個性が心地よく、一人ひとりが穏やかにそして活気ある日々が展開されている。ホーム名のさくらんぼに因み、庭先に植樹されたさくらんぼの苗木の成長を楽しみながら、今後も地域の中で入居者と職員の笑顔が溢れるホームとなっていくことに期待がもたれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

グループA

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、職員は名札にも携帯している。又、新人のオリエンテーション時にも説明し実践に取り組んでる。	地域の中で家庭的な環境・支援のもと認知症介護のホームとして邁進することを謳った理念や方針は職員の共有や意識に高さによって実践されている。管理者は「自分の親と思ったらケアが変わってくる！」と、日々の業務の中で伝達している。理念はホールや事務所内に掲示することにより、職員や来訪者への啓発や共有に繋げ、職員採用時には初日に時間をとって説明が行われ、理念に沿ったケアの重要性などが指導されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へ参加したり小中学生の慰問、学習発表会の招待を受け交流を深めている。音楽、舞踊などボランティアの支援も受けている。	交流のある地域小学校の学習発表会では、入居者の座席が設けられ、今年度は学校関係者より『グループホームさくらんぼ須屋』の紹介を行ってくれるなど、大変有難かったと管理者は語っている。また、地域行事は推進会議や回覧板より情報が収集され、地元神社の案内や、どんどやではぜんざいを頂きながらの交流など、開設年数と共に、身近なホームとなっていることが聞き取りからも確認された。	今年度は地域の『女性部』の班長を依頼されており、この活動がホームの理解や啓発の機会となり、地域貢献にも繋がっていくと思われる。活躍に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの見学時、運営推進会議でも認知症に関する話と事例を通しての話をしている。中高校生の職場体験時も認知症について理解を深めてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や活動状況を報告し、地域の方、役所の方にも助言をいただき意見交換の場となっている。来訪者にも会議の内容を理解していただける様に議事録を玄関に提示している。	定期的に十数名の参加者により開催される会議は、地域の情報収集や参加者より「グループホームとはどんなところですか？」など、素朴な質問が出され、管理者より機能や入所条件などが説明されている。また、地域で認知症を支えていきたいとの意見が出されるなど、有意義な会である事が窺える。会議の中では外部評価について、結果報告の他、項目や調査方法の説明が行われている。会議録は玄関に開示されており、家族・来訪者への共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回行われる運営推進会議に参加していただき、電話やメールでも情報交換ができています。サービスでわからないことや家族からの相談を受けた時は、役所に出向き助言を受けています。	行政担当者とは推進会議への参加時にホームの現況を伝え、参加者より出された質問内容によっては行政として適宜回答が行われている。また、管理者は普段より電話やメール以外にも内容によっては、直接役所を訪れ相談を行い、受けた指導やアドバイスをサービスの向上に繋げる他、徘徊模擬訓練への参加など協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外、施錠をしておらず日中はセンサーを設置し出入りを確認している。新人にも身体拘束マニュアルについてきちんと説明している。	身体拘束に関するマニュアルによる共有をはじめ、職員間でスピーチロックを含め気づいたことがあれば互いにのべ合う関係を大切にしている。日中は玄関の施錠もなく外出の傾向にある方も職員が付き添いながら散歩をしたり、ホーム内で歩行訓練を兼ねて安心してもらうなどその方の行動を制限しない取り組みの場面が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で気付いたことがあれば早めに言い合える環境づくりに努めて虐待防止を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入所当時1名の方が利用されており、社協の方が定期的に訪問し、職員も理解を深めることができた。机上勉強会での知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明をしている。何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の際は現状報告し、意見や要望を聞くようにしている。担当を設けており日頃からご家族とも話しやすい環境づくりを心がけている。そこで出た意見、不満、要望はスタッフ同士報告し、改善につなげている。	家族の面会に繋がるよう日頃からコミュニケーションに努め、電話連絡をはじめ、入居者の担当職員による、毎月の手書きの便りは家族の信頼や安心に繋がっている。また、広報誌の発行などホームの現状や取り組みを積極的に発信している。年末にはお茶と甘味で脇あいいとしたクリスマス茶話会も開催されている。家族から本人と一緒にクラシックコンサート(夜間)に行きたいや、外食後歩行運動をしたいのでトレーニングズボンを着用させておいて欲しいなど、家族の思いを充分汲み取りながら対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの際は職員の意見を聞くようにし提案に対しては皆で話し合い改善し、次へのステップにつなげている。	部署会議やユニット合同会議などの中で、職員の意見や提案を確認し、サービス向上に反映する体制となっている。申し送りに時間を要しすぎることから、端的に伝達を済ますためにも、何でもノートや連絡帳と題されたユニット別のノートも活用されている。法人関係者は推進会議をはじめ、ホームを訪れた際は職員と言葉を交わし、管理者も職員の健康状態にも配慮しながら勤務体制など職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員と話す時間を設け、勤務に無理はないか不満などについて確認している。経験のある人には新人のフォローをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外、母体での勉強会に参加を呼び掛けている。レベルアップのため介護支援専門員や介護福祉士の資格取得の支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は菊池管内のグループホーム勉強会へ職員は参加し、そこで情報交換や新しいことを習得している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、又 言動に注意を払い遠慮なく思いを伝えられる環境づくりや声掛けをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減と不安が解消できるよう、又 思いを表現できるように支援している。面会時は家族とコミュニケーションを取りゆくりと過ごしてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって今困っていることや要望など確認し安心して生活できるような柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を聞き安心して生活していただけるような声掛けを行っている。日常生活の中で個別で会話する時間を設けたり趣味や楽しみが見いだせる様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の状況を書いた手紙を担当者が書き送付。2ヶ月1回発行している‘さくらんぼ新聞’にはホームでの様子や写真を載せて伝えている。又、家族に負担がない程度、外出や外泊などを支援している。年に1回家族と茶話会を行い意見や希望を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者の家族・親戚や友人の面会はホールや居室でゆっくり過ごしてもらっている。以前、小規模やデイを利用していた方はスタッフに来てもらったり、事業者内でのイベント時は行き来し馴染みの人との交流を図っている。	家族や親類、知人の来訪時にはホールや居室でゆっくり過ごしてもらいように言葉をかけ、今年度は元同僚や幼なじみの面会が実現している。クラシックや童謡など好みの音楽を楽しめるような環境に努め、ホールから自身の童謡の歌声が聞こえ、ホームの日頃の支援を知ることができた。また、書や写経など趣味や特技、心の支えなど本人にとってこれまで大切にしていた物事や時間を継続して取り組めるようにしている。書や写経、絵などの作品はホーム内に掲示され本人の自信にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や能力を把握した上で協力・共同生活できる様職員は見守り、時には間に入っている。孤立しそうな利用者に対しては個別で対応しストレスにならないように、気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へ病状を伺いの電話をしたり、施設や病院の相談員の方を通して状況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛け、会話、身体ケアを重ねながら今望まれていることや不安に思っている事を察知し家族面会時にも意見を聞いている。ケアプランや随時のカンファレンスにて一貫した援助が出来る様、職員同士の話し合う機会を設けている。	ホーム全体で入居者の思いを共有できるよう朝礼は両ユニット合同で開催している。暮らし方の希望や意向など担当職員が中心になって把握に努め、ユニットの共有ノートも活かされている。また、家族からの情報も大切に来訪時には近況を伝えながら、何か気づいた点はない尋ね、プラン作成に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネジャーから入所以前の生活歴、家族構成、身体状況等の情報収集に努めている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意思を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。又、本人の現状での心身状態に応じて無理のないように、今出来ることや興味のあることの把握に努め生活の中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち職員を中心に日々気づいたことは職員間で話し合い検討している。また、担当者会議では本人や家族の意見を取り入れ援助がケアプランに沿って進んでいるか確認しながら行っている。	本人・家族の思いや意向、担当職員の意見を組み入れたプラン作成を行い、見直しは六ヶ月を基本とし、介護度や入院など状況の変化に応じて行っている。また、プランに沿った統一した支援ができていないか、随時カンファレンスを開催している。計画作成担当者は家族の状況に応じた時間や方法で説明を行い、了承を得ている。また、何か意見などがあれば、気軽に申し出て欲しい事を説明の際に伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、特変や家族からの連絡、医療機関受診などの注意事項は送りノートを活用し職員間での情報交換を行っている。それにより介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望は家族に伝えているが、出来ないことに対して日用品を一緒に買いに行ったり、近くの理髪店まで同行している。外出の機会が少ない方へは気分転換にドライブなど柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	正月は近くの神社へ参拝、又 地域の行事にも参加している。定期的に理髪店に行かれる方は顔なじみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は家族が同行するが、受診前には日頃の状況を話し、必要時には職員も同行している。	入居時の話し合いにより本人・家族の希望を優先してかかりつけ医を決定している。今後を案じ往診医へ移行する方も居られるが、元々のかかりつけ医を引き続き支援し、家族による受診を基本としながらも初回の同行や、家族と一緒に出向き入居者の車の乗り降りをサポートするなど、ホームも柔軟に対応している。協力医による訪問歯科も実施され、医療機関や家族との連携を図り、入居者の現状を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常や身体面での変化があるときは早めに看護師に報告し、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と連絡を取り職員も面会に行き、退院前は担当医からのムンテラにも同席するなどして医療での連帯をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や看取りの実例はないが、勉強会により知識を深めている。食事や水分が摂れない方にはかかりつけ医、家族と相談し往診・点滴をしながらホームで管理できるところまでは介護したケースもある。	入居者の状態変化に伴い、家族や担当医師を交えて話し合い意向を確認している。往診医による点滴などの協力により、ホームで出来る所までを支援し、後に医療機関へ移行された例は経験している。管理者は日頃の健康管理が重要として入居者の異変を見逃さないよう普段の状態把握に努め、緊急時対応について机上訓練を実施している。	今後は本人・家族の意向確認の時期や、ホームの方針を文章化した「指針」の作成を検討するなど今後の取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し救急車要請やスタッフも連絡表も貼り出しすぐに電話が出来る様にしている。救急法や食中毒、感染症について机上勉強会を行い知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の立ち合いの下、災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を年2回行っている。又 新人職員については消火器の取り扱い、連絡網のマニュアルの説明をしている。更に地域の自治会長さんへも協力体制をお願いしている。	年2回総合訓練では夜間帯や地震を想定し、初回には消防署が立会い、普段からスロープなどの避難経路に物を置かないことなどが指導されている。館内で繋がった多機能事業所を含め敷地内を禁煙とし、普段の安全点検では項目を設定して実施している。自治会長を中心に近隣や地域に向けた緊急時の情報発信が確立し、食備蓄に飲料水や手軽に食べられるクラッカー類を準備している。	職員は訓練の中で初期消火の大変さや、出火場所の確認に時間がかかったことなどを挙げており、次回の訓練に反映させることや、引き続き地域との連携強化に向けた取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した介護、声掛け等を心がけている。又、排泄、入浴、個室でのプライバシー面で利用者が気持ちよく過ごして頂けるよう、また希望に添えるような対応に努めている。	職員は入居者への言葉遣いについて堅苦しくならず、馴れ合いにならないような言葉を生活の中で使い分け、入居者への尊敬の念を持って対応するよう努めている。呼称は苗字にさん付けで呼んでいるが夫婦で入居されている方には本人や家族から了承の得られた「おとうさん、おかあさん」と呼び対応している。居室への入室やトイレや入浴時の確認の際にはノックを徹底し、プライバシーへの配慮を申し合わせている。広報誌への写真掲載について家族の承諾を得、守秘義務への認識を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や入浴、休む時間等、日常の中で選択をして頂けるよう声かけを行い、無理強いすることなく一人一人が自由に過ごせるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、一人一人のペースや生活リズムを大切に話しを聞きながらホールや居室でゆっくり過ごしていただいている。又、すぐに対応できない時は丁寧に説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は入所者と一緒に考え、選択し着ていただけるような声かけしている。散髪は以前より利用されていたところへ行ってもらい、家族や利用者から要望があれば近所の理容室へ行けるように支援し同行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前は献立を紹介し召し上がっていただいている。嚥下状況に合わせ、きざみ、小刻み、ミキサー食を提供しムセのある方にはトロミをつけている。食材の盛り付け準備を職員と一緒にやっている。週に2回検査も兼ね入所者と同じ食事を摂っている	法人の献立をもとに、差し入れ野菜や旬の食材及び入居者の好みを反映した食事を提供している。誕生会には赤飯が用意され、入居者も普段のおやつ作りには一緒に関わりながら、団子を丸めたり、ホットケーキを焼くなど楽しみながら取り組んでいる。食事中は音楽が流れ、職員の見守りや介助のもと、「今日の魚は食べやすいね～」「もう食べたよ！」など、感想が飛び出す和やかな時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、食欲がない方には好みの食材を家族より持参してもらっている。季節や室温により色々な飲み物を提供し脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけ、誘導を行っている。できる範囲まで自力で歯磨きをしていただき、奥歯など磨きにくい所は職員が介助しチェックと仕上げを行っている。夜間は可能な限り義歯を預かり、ポリドントに浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけや誘導を行っている。夜間は紙パンツを使用される方も、日中は出来るだけ布パンツ、尿とりパットを使用していただき、自立支援を行っている。	一人ひとりの排泄間隔や特徴を把握し、誘導や声かけにより日中はトイレでの排泄を基本としている。時にはユニットを超えてトイレを使うことで顔馴染みの関係を作り、夜間は紙パンツやポータブルトイレを利用する方でも、日中は出来る限り布下着に尿とりパットを併用して身軽に動いてもらうなど、入居者の立場に立ち対応している。ポータブルトイレの衛生管理にも注意が払われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンを把握し、トイレ誘導時は腹部マッサージ、ウォシュレットを使用し刺激したり水分補給や運動を促しできるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時も冷たい飲み物、乳製品(牛乳・ヨーグルト)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後からのゆっくりとした時間を設けてあり、入浴前には好みの衣類と一緒に準備したり浴室では個々に合わせた会話をしたり、季節ごとにゆずやしょうぶを入れ楽しんでいただいている。羞恥心のある方は女性職員が対応し、入浴している。	入浴が楽しみなものとなるよう着替えの準備を入居者と一緒に行ったり、毎回、同じ時間に入る方の希望に添い、男性入居者には男性職員が対応するなど一人ひとりのニーズに合わせて支援している。掃除が行き届き清潔な浴槽で湯温や湯量に配慮し、柚子や菖蒲などの季節風呂は数日に渡り準備して全入居者が入れるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間の早い方や臥床の希望があれば10時のお茶まで本人の部屋で休んでいただき、日中はレクリエーションや体操で体を動かしている。夜間眠れないときは傾聴し安心して頂ける様声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	壁かけ袋に1日分ずつ一人一人入れて管理し内服確認している。個人の薬袋の中に説明書も入れてあり薬セットから服用まで回数チェックしている。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中にレクリエーションを兼ねて皆で歌を歌っている。字を書くことが得意な方には写経や習字の時間を設けたり、塗り絵が好きの方には季節感ある塗り絵などをしていただいている。又、出来る範囲で食事の用意や洗濯干し、部屋の掃除をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い、気候、体調に合わせて散歩や季節ごとの外出(桜・バラ・コスモス見学、初詣、小学校の文化祭)を実施している。地域で行っているどんどやにも参加し地域の方との関係を保とうと努力している。おやつや日用品など職員と一緒に買い物に出かけている。	「週一回は外出を！」を合言葉に入居者が地域へ出る機会を作っている。季節の花見学や神社参拝・地域行事への参加や個別の買い物・近隣の散歩など入居者の希望を聞きながら、出来る限り出かけている。週一回の里帰りや夕食を自宅で楽しむ方など、家族もできることで入居者を支え時間を共有するよう惜しみない協力が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望に応じて本人のお金は数千円、金庫内に保管している。日用品やお菓子をスタッフが同伴し買い物に行っている。面会時や担当者会議時、残金やレシート・出納帳を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、電話の使用の支援している。家族が遠方におられる方は様子伺いの電話が来た際は本人と変わっている。また、家族への手紙をスタッフと共に書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保ち、日中はカーテンを開け外気の光を取り込み、快適に過ごすことができるように気をつけている。観葉植物を置いたり、季節の花を飾っている。また、外出時に撮った写真、ぬり絵、習字などを展示している。	新興住宅地にありながら畑が残る静かな風景の移り変わりをリビングからの眺めとし、入居者が日々寛ぎ日中の大半を過ごされている。リビング前のウッドデッキは日光浴や洗濯干し場として活用され、有事の際の避難経路ともなっている。共有空間には差し入れの花を飾り、入居者の作品を掲示して、温かな雰囲気作りを力を入れている。両ユニットをつなぐ長い廊下は生活リハビリに活かされ、入居同士が自由に行き来している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の中で個々の好む場所を理解し 入所者同士のコミュニケーションが図れるようにテーブルや椅子の配置を変えている。又、テレビの側にソファを置き、ゆっくり出来るスペースを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室において利用者と家族の要望に合わせて使い慣れた寝具の使用やベッドの高さや配置を話し合っている。また個々の好みの小物や写真を飾っている。	居室には入居者の懐かしい写真や寝具・テレビやテーブル・ソファなど愛用の品が持ち込まれ、窓との位置関係や動線に合わせてベッドや持ち込みの品をレイアウトしている。職員が室温や換気に注意し室内環境を整え、入居者の中にはモップを持って掃除をされる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており利用者の一人一人の身体状況を把握し独歩・歩行器・車椅子の方にとっても安心して行動できるスペースを設けている。トイレは「便所」と表示し分かりやすくしている。		

自己評価および外部評価結果

グループB

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、職員は名札にも携帯している。又、新人のオリエンテーション時にも説明し実践に取り組んでる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へ参加したり小中学生の慰問、学習発表会の招待を受け交流を深めている。音楽、舞踊などボランティアの支援も受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの見学時、運営推進会議でも認知症に関する話と事例を通しての話をしている。中高校生の職場体験時も認知症について理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や活動状況を報告し、地域の方、役所の方にも助言をいただき意見交換の場となっている。来訪者にも会議の内容を理解していただける様に議事録を玄関に提示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回行われる運営推進会議に参加していただき、電話やメールでも情報交換ができています。サービスでわからないことや家族からの相談を受けた時は、役所に出向き助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外、施錠をしておらず日中はセンサーを設置し出入りを確認している。新人にも身体拘束マニュアルについてきちんと説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で気付いたことがあれば早めに言い合える環境づくりに努めて虐待防止に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入所当時1名の方が利用されており、社協の方が定期的に訪問し、職員も理解を深めることができた。机上勉強会での知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明をしている。何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の際は現状報告し、意見や要望を聞くようにしている。担当を設けており日頃からご家族とも話しやすい環境づくりを心がけている。そこで出た意見、不満、要望はスタッフ同士報告し、改善につなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの際は職員の意見を聞くようにし提案に対しては皆で話し合い改善し、次へのステップにつなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員と話す時間を設け、勤務に無理はないか不満などについて確認している。経験のある人には新人のフォローをお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外、母体での勉強会に参加を呼び掛けている。レベルアップのため介護支援専門員や介護福祉士の資格取得の支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は菊池管内のグループホーム勉強会へ職員は参加し、そこで情報交換や新しいことを習得している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、又 言動に注意を払い遠慮なく思いを伝えられる環境づくりや声掛けをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減と不安が解消できるよう、又 思いを表現できるように支援している。面会時は家族とコミュニケーションを取りゆっくりと過ごしてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって今困っていることや要望など確認し安心して生活できるような柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を聞き安心して生活していただけるような声掛けを行っている。日常生活の中で個別で会話する時間を設けたり趣味や楽しみが見いだせる様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の状況を載せた手紙を担当者が書き送付。2ヶ月1回発行している‘さくらんぼ新聞’にはホームでの様子や写真を載せて伝えている。又、家族に負担がない程度、外出や外泊などを支援している。年に1回家族と茶話会を行い意見や希望を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者の家族・親戚や友人の面会はホールや居室でゆっくり過ごしてもらっている。以前、小規模やデイを利用していた方はスタッフに来てもらったり、事業者内でのイベント時は行き来し馴染みの人との交流を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や能力を把握した上で協力・共同生活できる様職員は見守り、時には間に入っている。孤立しそうな利用者に対しては個別で対応しストレスにならないように、気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へ病状を伺いの電話をしたり、施設や病院の相談員の方を通して状況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛け、会話、身体ケアを重ねながら今望まれていることや不安に思っている事を察知し家族面会時にも意見を聞いている。ケアプランや随時のカンファレンスにて一貫した援助が出来る様、職員同士の話し合う機会を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネジャーから入所以前の生活歴、家族構成、身体状況等の情報収集に努めている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意思を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。又、本人の現状での心身状態に応じて無理のないように、今出来ることや興味のあることの把握に努め生活の中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が入所者の担当の役割を持ち、日々その方の生活状況を把握し特変または状況の変化時は申し送りノートやカンファレンスを通して話し合い検討している。又担当者会議では本人、家族の意見を取り入れケアプランに沿って援助ができて居るか確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、特変や家族からの連絡、医療機関受診などの注意事項は申し送りノートを活用し職員間での情報交換を行っている。それにより介護計画の見直しや実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望は家族に伝えているが、出来ないことに対して日用品を一緒に買いに行ったり、近くの理髪店まで同行している。外出の機会が少ない方へは気分転換にドライブなど柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	正月は近くの神社へ参拝、又地域の行事にも参加している。定期的に理髪店に行かれる方は顔なじみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は家族が同行するが、受信前には日頃の状況を話し、必要時には職員も同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常や身体面での変化があるときは早めに看護師に報告し、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と連絡を取り職員も面会に行き、退院前は担当医からのムンテラにも同席するなどして医療での連帯をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や看取りの実例はないが、勉強会により知識を深めている。食事や水分が摂れない方にはかかりつけ医、家族と相談し往診・点滴をしながらホームで管理できるところまでは介護したケースもある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し救急車要請やスタッフも連絡表も貼り出しすぐに電話が出来る様にしている。救急法や食中毒、感染症について机上勉強会を行い知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の立ち合いの下、災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を年2回行っている。又 新人職員については消火器の取り扱い、連絡網のマニュアルの説明をしている。更に地域の自治会長さんへも協力体制をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した介護、声掛け等を心がけている。又、排泄、入浴、個室でのプライバシー面で利用者が気持ちよく過ごして頂けるよう、また希望に添えるような対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や入浴、休む時間等、日常の中で選択して頂けるよう声かけを行い、無理強いくことなく一人一人が自由に過ごせるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、一人一人のペースや生活リズムを大切に話しを聞きながらホールや居室でゆっくり過ごしていただいている。又、すぐに対応できない時は丁寧に説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は入所者と一緒に考え、選択し着ていただけるような声かけしている。散髪は以前より利用されていたところへ行ってもらい、家族や利用者から要望があれば近所の理容室へ行けるように支援し同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事やおやつを提供し、食事の前は献立を紹介している。嚥下状況に合わせ、きざみ、小刻みを提供しむムセのある方にはトロミをつけている。食材の盛り付け準備や食後の片づけを職員と一緒にしている。週に2回検食も兼ね入所者と同じ食事を摂っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、食欲がない方には好みの食材を家族より持参してもらっている。季節や室温により色々な飲み物を提供し脱水予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけ、誘導を行っている。できる範囲まで自力で歯磨きをしていただき、奥歯など磨きにくい所は職員が介助しチェックと仕上げを行っている。夜間は可能な限り義歯を預かり、ポリドントに浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけや誘導を行っている。夜間は紙パンツを使用される方も、日中は出来るだけ布パンツ、尿とりパットを使用していただき、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンを把握し、トイレ誘導時は腹部マッサージ、ウォシュレットを使用し刺激したり水分補給や運動を促しできるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時も冷たい飲み物、乳製品(牛乳・ヨーグルト)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後からのゆっくりとした時間を設けてあり、入浴前には好みの衣類と一緒に準備したり浴室では個々に合わせた会話をしたり、バスクリン、季節ごとにゆずやしょうぶを入れ楽しんでいただいている。羞恥心のある方は女性職員が対応し、入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間の早い方や横になりたいと希望があれば10時のお茶まで本人の部屋で休んでいただき、日中はレクリエーションや体操で体を動かしている。夜間眠れないときは傾聴し安心して頂ける様声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	壁かけ袋に1日分ずつ一人一人入れて管理し内服確認している。個人の薬袋の中に説明書も入れてあり薬セットから服用まで回数チェックしている。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中、学習療法や歌、ゲームをレクリエーションを兼ねて行っている。午後からは塗り絵やパズルが好きな方は勤めている。又、出来る範囲で配膳、洗濯干し、部屋掃除の声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い、気候、体調に合わせて散歩や季節ごとの外出(桜・バラ・コスモス見学、初詣、小学校の文化祭)を実施している。地域で行っているどんどやにも参加し地域の方との関係を保とうと努力している。おやつや日用品など職員と一緒に買い物に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望に応じて本人のお金は数千円、金庫内に保管している。日用品やお菓子をスタッフが同伴し買い物に行っている。面会時や担当者会議時、残金やレシート・出納帳を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、電話の使用の支援している。家族が遠方におられる方は様子伺いの電話が来た際は本人と変わっている。また、家族への手紙をスタッフと共に書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保ち、日中はカーテンを開け外気の光を取り込み、快適に過ごすことができるように気をつけている。観葉植物を置いたり、季節の花を飾っている。また、外出時に撮った写真、ぬり絵などを展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の中で個々の好む場所を理解し、入所者同士のコミュニケーションが図れるようにテーブルや椅子の配置を変えている。又、テレビの側にソファを置き、ゆっくり出来るスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室において利用者と家族の要望に合わせて使い慣れた寝具の使用やベッドの高さや配置を話し合っ決めていく。また個々の愛用の品物や写真を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており利用者の一人一人の身体状況を把握し独歩・歩行器・車椅子の方にとっても安心して行動できるスペースを設けている。トイレは「便所」と表示し分かりやすくしている。		